

高知県の地震

目 次

高知県の地震活動	
震央分布図及び断面図	1
地震概況	1
高知県で震度 1 以上を観測した地震と各地の震度	2
高知県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図	2
地震一口メモ	
南海トラフ地震について	3

※「高知県の地震」は月 1 回発行するもので、高知県及びその周辺の地震活動状況をお知らせすると共に、適宜、社会的に関心の高い地震について解説します。また、「地震一口メモ」で地震防災知識等の普及に努め、皆様のお役に立つことを目的としています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査された後に修正されることがあります。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米
国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

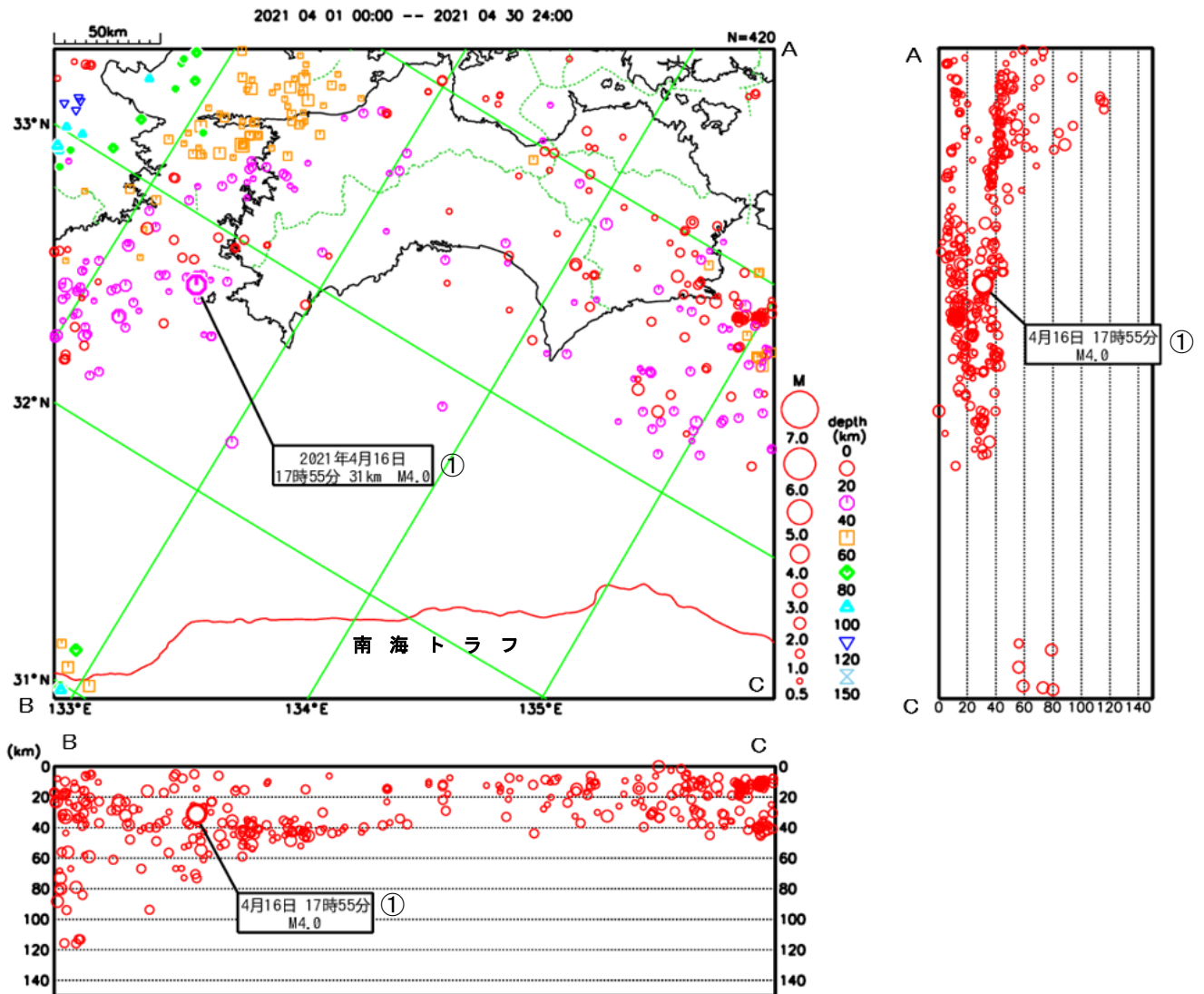
2021年(令和3年)4月

高 知 地 方 気 象 台

高知県の地震活動

「震央分布図及び断面図」

(2021年4月1日～4月30日)



震央分布図では、地震の規模を示すマグニチュード(M)はシンボルの大きさで表しています。震源の深さはシンボルの形と色を深さに応じて変えて表しています。右上の「N」は図中に表示しているシンボルの数(地震の回数)、右の「depth」は地震の深さの凡例を示しています。

断面図(右図及び下図)は、震央分布図範囲内の地震の北北西-南南東(A-C)方向断面図(右)と西南西-東北東(B-C)方向断面図(下)を表し、それぞれの地震の震源の垂直分布を表しています。

「地震概況」

2021年(令和3年)4月に、高知県内の震度観測点で震度1以上を観測した地震は1回でした(前月は2回)。

16日17時55分、日向灘の地震(深さ31km、M4.0、震央分布図①)により、宿毛市・大月町で震度2を観測したほか、県内西部で震度1を観測しました。また、愛媛県で震度2を観測したほか、愛媛県、大分県で震度1を観測しました。

注) 地震概況にある数字は、「震央分布図」、「地震の表」及び「震度分布図」の番号に対応しています。

「高知県で震度 1 以上を観測した地震と各地の震度」

2021 年 4 月

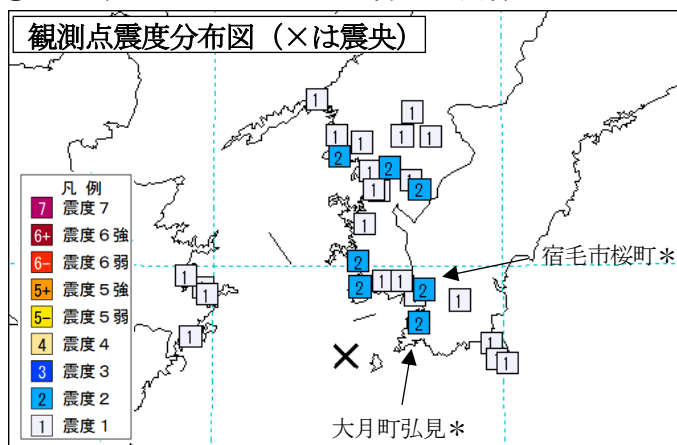
発震時刻 (年月日時分) 各地の震度 (高知県内のみ掲載)	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
① 2021 年 04 月 16 日 17 時 55 分	日向灘	32° 44.3' N	132° 27.5' E	31km	M4.0
高知県	震度 2 : 宿毛市桜町*, 大月町弘見*				
	震度 1 : 宿毛市片島, 土佐清水市足摺岬, 土佐清水市松尾*, 土佐清水市天神町*, 三原村来栖野*				

注) *印は、気象庁以外 (高知県または国立研究開発法人防災科学技術研究所) の震度観測点です。

「高知県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図」

2021 年 4 月

①2021 年 04 月 16 日 17 時 55 分 日向灘 深さ 31km M4.0



注) 観測点震度分布図には、県内で最も大きい震度を観測した観測点が少ない場合、観測点名を記載しています。観測点名の*印は、気象庁以外 (高知県または国立研究開発法人防災科学技術研究所) の震度観測点です。

「地震一口メモ」

南海トラフ地震について

1. 南海トラフ地震とは

静岡県駿河湾から紀伊半島の南側の海域及び土佐湾を経て日向灘沖までのフィリピン海プレートとユーラシアプレートが接している海底の溝状の地形を「南海トラフ」といいます(図1)。この「南海トラフ」沿いのプレート境界では、海側のプレート(フィリピン海プレート)が陸側のプレート(ユーラシアプレート)の下に1年あたり数cmの速度で沈み込んでおり、陸側のプレートには年々ひずみが蓄積されています。このひずみが限界に達して跳ね上がることで発生する地震が「南海トラフ地震」となります。「南海トラフ地震」が発生して、一旦ひずみが解放されてもひずみは再び蓄積されていくため、「南海トラフ地震」は繰り返し発生します(図2)。

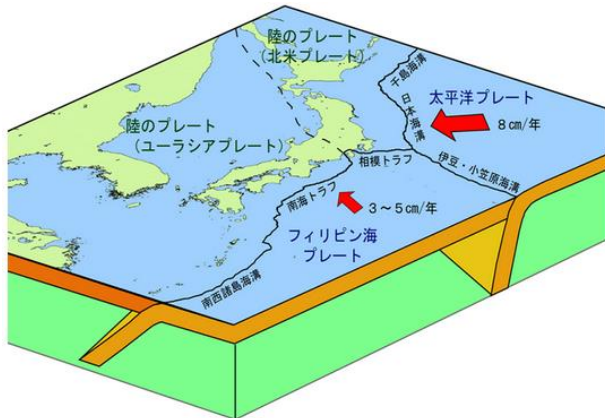


図1 日本周辺のプレート
(出典：気象庁ホームページ)

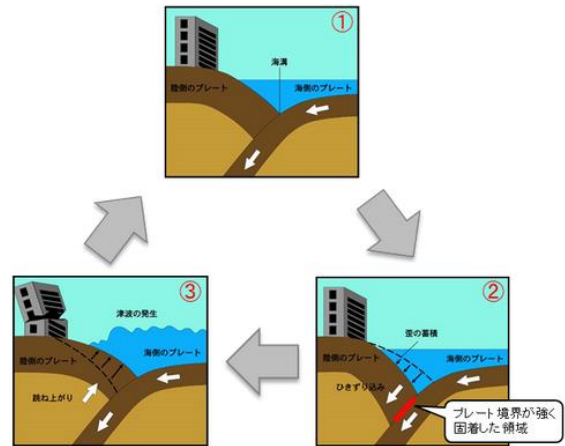


図2 南海トラフ地震の発生メカニズム
(出典：気象庁ホームページ)

2. 南海トラフ地震はいつ発生するのか

過去の南海トラフ地震の発生事例については、古文書の読み解きなどから発生時期や発生した場所なども分析されています。これによると、概ね100年から150年間隔で繰り返し発生していることが分かっており、前回の昭和南海地震(1946年)から70年以上が経過した現在、次の南海トラフ地震発生の切迫性が高まっています(図3)。

3. 南海トラフ地震から命を守るために

南海トラフ地震が発生した場合、強く長い揺れが数分間続きます。日ごろから家具などを固定する、通学や通勤経路の危険箇所(ガラス、ブロック塀など)を確認するなどして、地震の揺れに備えましょう。

太平洋側を中心に大きな津波が発生します。海の近くで津波警報等を見聞きした場合は、高台へすぐに避難しましょう。また、海の近くで強い揺れや弱くても長くゆっくりとした揺れを感じた場合は、津波警報等の発表を待たずにすぐに避難しましょう。

自治体などが実施する訓練に参加するなど、地震や津波が発生した際の避難行動について確認しておきましょう。

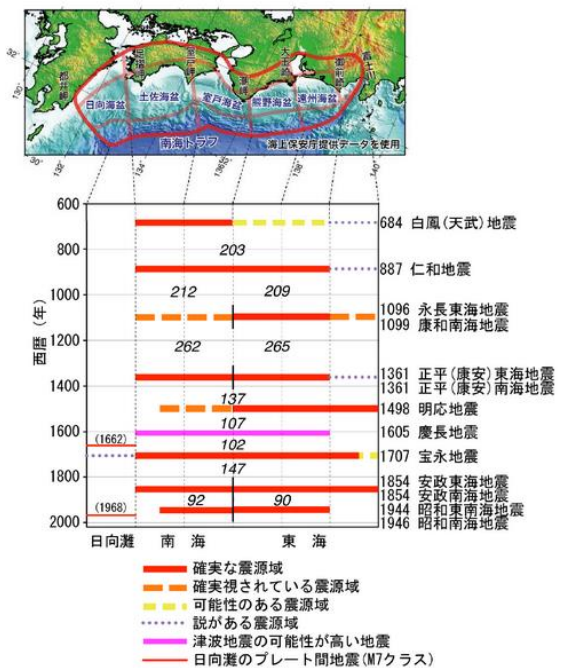


図3 過去に発生した南海トラフ沿いの地震
(出典：地震調査研究推進本部)

- ・南海トラフ地震特設ページ (大阪管区気象台)
<https://www.data.jma.go.jp/osaka/jishinkazan/nankai/index.html>
- ・定期刊行物 高知県の地震 (高知地方気象台)
<https://www.data.jma.go.jp/kochi/kankoubutsu.html>